

青葉小学校

跡活用部会ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会 北側部会の閉会后、令和元年6月より、青葉小学校跡活用検討部会で学校の跡活用を検討しています。検討状況は跡活用部会ニュースを通じ、地域住民の皆さまに随時お知らせしてまいります。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校等でも配布しています～

第5回跡活用部会について

7月20日（火曜日）午前10時から、青葉まちづくりセンターで第5回部会を開催しました。

部会に寄せられた意見

昨年（令和2年）3月27日（金曜日）に開催した第4回部会以降、事務局に寄せられた意見はありませんでした。

新札幌わかば小・青葉中を中心とした市有施設の更新イメージ

札幌市の関係部局から、新札幌わかば小・青葉中を中心とした市有施設の更新イメージについて説明がありました。

関係各部からの説明

■小中一貫校(義務教育学校)設置（教育委員会 学校施設担当部）

- ・ 青葉中学校区は平成30年度から「札幌市小中連携・一貫教育推進事業モデル研究校」としてモデル事業を実施するなど、先行的な取組を進めてきました。
- ・ 令和3年3月に「札幌市における義務教育学校の設置方針」を策定し、通学区域が概ね小中同一校区であることなどの要件を満たしている地域にて小中一貫校の設置を検討することとしています。
- ・ 青葉中学校の改築時期となる15～20年後に施設一体型の「小中一貫校」を設置する予定で、校舎はより校区の中心に近い青葉中学校敷地を活用する想定です。

■地域コミュニティ施設の複合化（財政局 財政部）

- ・ まちづくりセンターや地区会館、児童会館等は学校の改築・改修に合わせて複合化します。小学校区に相当するエリアを「地域コミュニティエリア」と設定し、まちづくりセンター・地区会館、児童会館等を複合化するとともに、地域の方も利用可能な多目的ホールを設けることで、身近な行政相談などの窓口機能、児童会館などの子育て機能、健康づくり機能など、日常生活に必要な機能を配置します。

■まちづくりセンター・地区会館などの複合化（市民文化局 地域振興部）

- ・ 青葉まちづくりセンター・青葉会館は 15 年～20 年後の小中一貫校化に合わせて 400 m²で複合化する方向で検討しています。なお、小中一貫校化までは現状を維持する予定です。
- ・ 厚別南地区センターも小中一貫校化に合わせて複合化する予定ですが、どのような機能を複合化するかについては検討中です。
- ・ 青葉地域で行われているフロアカーリングは、新札幌わかば小学校の学校施設開放事業を利用できないか、調整していきます。
- ・ 福祉のまち推進センターは、青葉まちづくりセンター・青葉会館にスペースを確保することが困難なため、小中一貫校化に合わせて複合化を進めたいと考えています。

■児童会館（子ども未来局 子ども育成部）

- ・ 現在、青葉児童会館と新札幌わかば小ミニ児童会館が併存していますが、児童が放課後にそのまま小学校内の児童会館に通える環境を目指し、なるべく早期に新札幌わかば小内の児童会館機能を強化した上で、青葉児童会館を統合したいと考えています。
- ・ 青葉児童会館の体育室機能は新札幌わかば小の体育館を代替活用し、青葉児童会館で実施している子育てサロン事業は新札幌わかば小の児童会館で実施します。
- ・ 青葉児童会館跡地は売却する予定ですが、地域がコミュニティ機能としての活用を希望する場合は、地域による自主運営で、建物を市民集会施設としてご利用いただくことも可能です。

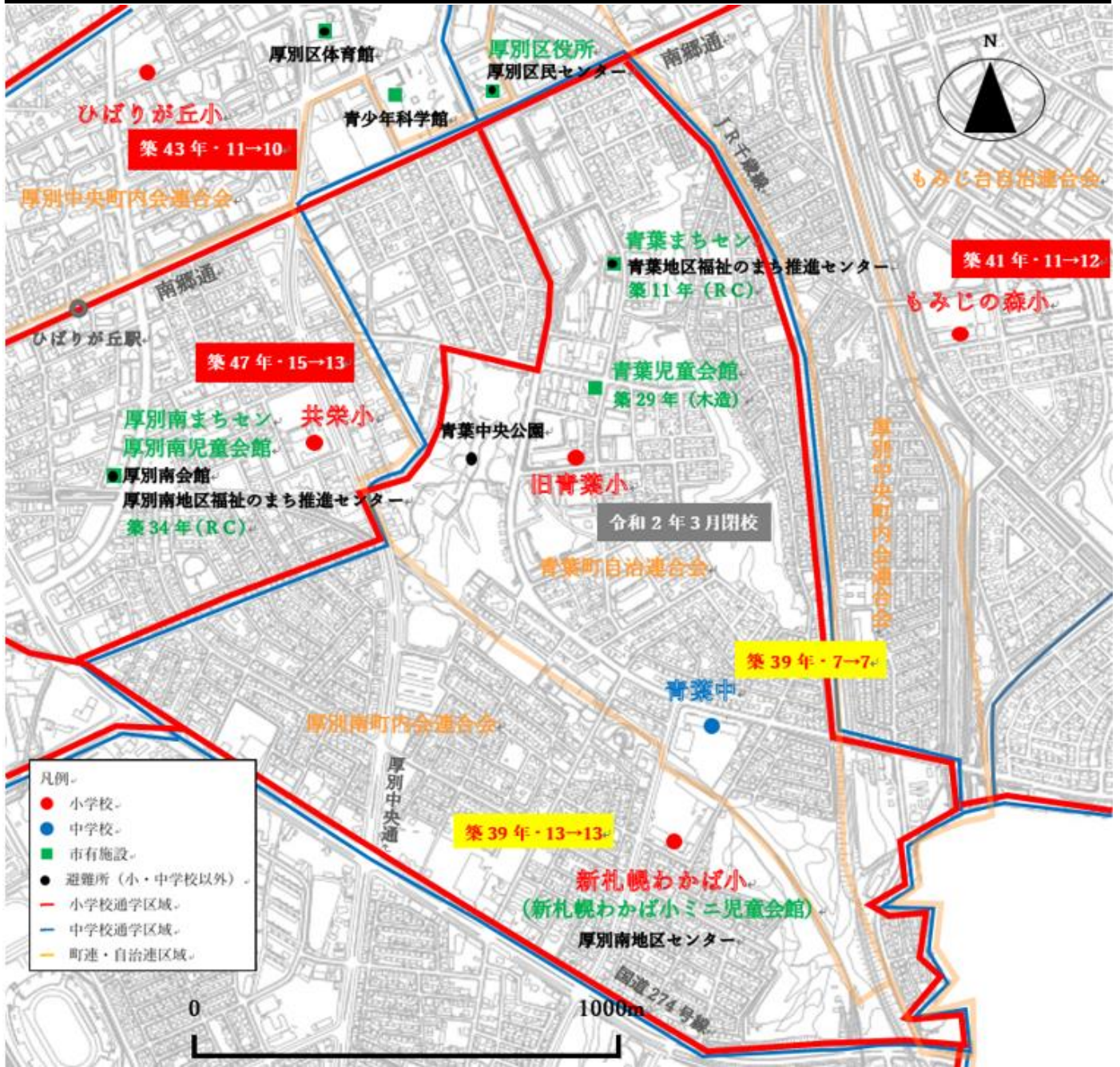
■旧青葉小の跡活用（まちづくり政策局 都市計画部）

- ・ 旧青葉小学校は、市役所としての公共利用が見込めないため売却します。なお、地域ニーズを踏まえた条件付での売却手続きをすすめることも可能です（10 年間の条件順守義務あり）。

■避難所（危機管理対策室 危機管理対策部）

- ・ 札幌市では、地震や洪水などの災害に備えて、徒歩で避難できる場所に避難先を用意することとしております。近隣の共栄小学校や青葉中学校などに避難いただくほか、青葉小学校閉校にあたっては、新たに青葉会館を指定避難所（地域）として指定しております。

○ 青葉地域の地図



◆質疑・意見等

- 小中一貫校を設置し、まちづくりセンターや地区会館、児童会館を複合化するなど、ハード面の整備については理解したが、15年～20年後の話だとは思っていなかった。地域コミュニティを誰が主体となって運営することになるのか、高齢者が多い地域なのに、高齢者に配慮した災害時の避難行動が明確にされていないことなど、ソフト面の検討が足りないと思う。ハード面、ソフト面を並行して「いつまでに何をやる」ということを関係部署で検討して欲しい。
- 旧青葉小と旧上野幌小の統合の検討を始めた時から、小学校の小規模化の問題と併せて、地域のまちづくりについても検討することを訴えたが、市から「後からやります」と言われて今に至る。今回説明のあった「小・中学校を中心とした市有施設の更新イメージ」については、時間が経過する中でうやむやにならないよう、今のうちに具体的なスケジュールを含めた札幌市としての構想をしっかりと示してほしい。
- 地域コミュニティ施設の複合化についての札幌市の方針は、旧青葉小と旧上野幌小の統合に向けて議論していた最中の平成26年に策定されているが、当時は、地域や保護者に対して一切、示されず、跡活用の議論は「統合が決まってから行う」と言われていた。この跡活用検討部会は、これまでに4回開催されているが、その中でも、市の方針について説明がなかったことに疑問を感じる。
- 地域コミュニティ施設を複合化することは、小中一貫校を設置する15年～20年後で、それまでの間、基本的には各施設現状維持であり、どうしても「先に手を付ける必要がある施設」については、新札幌わかば小を活用するなどして調整していくということか。

(回答)

青葉中学校区を小中一貫校化する際には青葉まちづくりセンター、青葉会館、青葉児童会館を複合化する想定ですが、これは決定事項ではありません。小中一貫校の校舎の設置を予定してい

る青葉中学校の敷地は「青葉地域の南端」という位置の問題もありますので、「どこに」、「どのように」複合化するのは、今後、地域の皆さんと一緒に検討、協議できればと考えています。

- 15年～20年後の小中一貫校化の際にコミュニティ施設を複合化するとしても、それまでの間にできることはやってほしい。

(回答)

15年～20年後がスタートのように感じてしまうかもしれませんが、そうではありません。地域の皆さんから意見をいただきながら様々な検討を進めていきます。

- 青葉児童会館の跡活用について、この検討部会で検討することはできるのか？

(回答)

旧青葉小の跡活用と合わせて検討することは可能です。青葉児童会館の今後の活用について、これからこの部会で議論させていただきたいと考えています。

- 児童会館の跡活用について学校の跡活用検討部会で議論するのは全市的にみて初めてのようだが、ここでの議論はしっかりと反映されるのか不安を感じる。

(回答)

大丈夫です。地域の方々の合意が得られない限りは、児童会館の複合化を強引に進めるつもりはありません。

- 以前、青葉児童会館を新札幌わかば小の敷地内に移設する計画があり、グラウンドを含めて敷地内での建設が可能か調査したことがあるが、児童会館を建てるだけの面積を確保することが難しいとのことで、現在の場所に残すことになった。

(回答)

新札幌わかば小のグラウンドに児童会館を建てるという議論もありましたが、グラウンドの広さがネックとなりました。今後は、新札幌わかば小ミニ児童会館の機能を強化した上で、青葉児童会館を統合し、利用する児童や子育てサロンを受け入れる形で進めていきたいと考えています。いずれにしても、青葉児童会館を新札幌わかば小に統合するのかどうか、統合した場合の青葉児童会館の跡活用については今後、地域の皆様と議論していきたいと考えています。

●青葉児童会館を新札幌わかば小に統合するとなると、統合後の建物をうまく活用していきたい。旧青葉小の跡地を民間に売却することになれば、青葉町地域の中心部に残る公共施設は児童会館しかない。

●今回の場合は地域コミュニティ施設の複合化は新札幌わかば小の建物を改修して使うのか？

(回答)

青葉中校舎の改築時期となる15年～20年後に、青葉中グラウンドに小中一貫校の校舎を、新札幌わかば小の敷地にグラウンドを、青葉中敷地の余剰地にサブグラウンドを整備する見込みです。なお、新札幌わかば小の校舎は解体を想定しています。

●統合時は旧青葉小が築50年で旧上野幌小の方が築年数が浅かった。「青葉中が15年後に築50年になるのでその際に小中一貫校にする」ということは、旧青葉小と旧上野幌小の統合前から「まず、旧上野幌小の校舎を活用して小学校を統合し、将来的には青葉中の敷地に小中一貫校を建設する」という想定があり、札幌市がやってきたことは出来レースだったのだろう。散々どこの小学校に統合するかの議論をさせておいて、実際は札幌市の方針に基づいてルールが敷かれていたのだろう。今後も札幌市の考え方がコロコロと変わっていくので、旧青葉小の跡地は更地にして放置しておいたほうがいい。小中一貫校にする際には今の青葉まちづくりセンターは青葉中のところに持っていくということか？

(回答)

札幌市の基本的な考え方としては、青葉まちづくりセンターを小学校と複合化することになりますが、地域の方々との議論の中で判断していくので、複合化のために移転することが決定しているものではありません。小中一貫校を建てる際に、地域の皆様が、まちづくりセンター、地区会館、ともに現在の位置のまま維持するという事であれば、その道もあると考えています。

●青葉中の場所は青葉町地域の端に位置している。青葉町地域の核となる場所は旧青葉小の位置。地域の機能はまちの中心にあるべきなので、旧青葉小は、解体して更地にし、その土地を、将来、地域コミュニティの核として活用するなど、青葉町のまちづくりの方向性が出るまでは、売却せずにそのまま置いておき、売却するのであればビジョンをしっかりと示すべき。

●民間売却となると、購入した事業者が地域貢献等を条件としての売却となるが、その条件は10年間のみの縛りであり、10年後が心配。

●旧青葉小と旧上野幌小の統合の議論は小中一貫校ができる前提で進めてきたので、早い段階で小中一貫校ができると認識していた。それが15年～20年後になり、それに合わせて地域コミュニティができると言われても、これから20年間はどうしたらいいのか。また、青葉中の場所は青葉自治連と厚別南町連の境目の場所になるが、どのように地域コミュニティを運営していくのか。市としての具体案があればよいが。

(回答)

令和3年3月に札幌市の義務教育学校(小中一貫校)設置の方針が固まったが、それまでは方針が定まっておらずなかなか具体的な話ができませんでした。方針が決まった現在は新札幌わかば小と青葉中の小中一貫校化が可能と考えられることから具体的な検討を始めたところです。

●校舎は改修や改築をせずにそのままがいいので、子どもたちが少しでも良い教育を受けることができるように、小中一貫校化を進めてほしい。小中一貫校化は統合を決めた大きな要素なので、それが20年後になると言われると、地域は納得しない。地域コミュニティの作り方も住民に任せるのではなく、市からの提案があるべき。

●避難場所だけでなく選挙のことも考えないといけない。今年中に国政選挙が行われるが、投票所はどうなるのか？

(回答)

年内に執行される衆議院議員総選挙では、旧青葉小の区域の皆さまには、青葉児童会館を投票所として使用していただく予定です。

●小中一貫校の話と地域コミュニティの問題は切り離して考えてほしい。議論すべきは旧青葉小跡地の問題。旧青葉小跡地を青葉地域の中核にして欲しい。

- 旧青葉小と旧上野幌小の統合を検討する際に、青葉町1丁目、2丁目から共栄小に通っている児童を旧青葉小に通わせていたら、旧青葉小が無くなることはなかったはずなのに、小中一貫校が設置された際には、共栄小の児童の一部を青葉中(小中一貫校)に通わせるというのはおかしい。

(回答)

青葉町1丁目、2丁目の児童が旧青葉小に通っていたとしても、旧青葉小の小規模化を解決するほどの児童数には達しませんでした。また、現在、共栄小校区・青葉中校区になっている青葉町1丁目、2丁目、5丁目の一部について、具体的な校区の割り方を決めているわけではなく、小中一貫校を設置する場合は、通学区域についても、皆様と協議していければと考えています。

- 委員の意見を総合すると、旧青葉小の解体はやむなしと思う。ただし、すぐに売却ということではなく、まちづくりの観点でどうしていくことが良いのかを協議しながら進めていかないと、時間ばかりを費やす。早いうちに青葉児童会館を新札幌わかば小に移転するなど、先に進められることから着手し、児童会館の跡地については、今住んでいる住民が活用できるようにして欲しい。長期間の議論に疲れてしまったので、もう少し前に進むような議論をしたい。

- 青葉まちづくりセンターに併設している青葉会館は、市営住宅C・D団地の集会所としての機能も兼ねており、市営住宅の居住者が第一優先。規制も多く、窓を開けてのカラオケは苦情になるため、地区会館としての機能を十分に果たすことができない。

- 旧青葉小跡地の一部を札幌市が所有して市有施設を作ってもらい、そこを青葉町のコミュニティの中核とし、子どもからお年寄りまで交流できることが望ましい。今、出来ることからやって欲しい。青葉まちづくりセンターと青葉会館を改築するタイミングとなる数十年後には複合化してもらうことが理想。このような形であれば、旧青葉小跡地の残りの土地は自由に売却してもらって構わない。

- 青葉児童会館は青葉町の中心だが、まちづくりセンターや地区会館、福祉のまち推進センターを入れるには敷地が狭い。

- 青葉会館は築 11 年と新しいが、冬季オリンピックなんかの招致はしないで、その分のお金で地区会館など地域にとって有用な施設を建てて欲しい。
- 旧青葉小跡地を市有施設用に一部を残しても、それ以外の土地を売却すれば十分な売却益は確保できる。その売却益を財源に、地区会館を建てる事だってできる。地域から一つ小学校が無くなったのだから、それぐらいの貢献をしてもらってもいいんじゃないかというのが青葉町地区の住民のささやかな気持ち。

委員の交代について

年度途中ではありますが、部会委員の交代がありましたので、全委員を紹介します(※下線は今回新たにご就任いただいた委員です)。なお、佐々木委員は第4回をもってご退任されました。これまでのご参加ありがとうございました。

氏名	役職	
土田 義也 (部会長)	青葉町自治連合会	会長
高平 弥生	青葉町自治連合会	女性部長
千葉 一晴	青葉町自治連合会	まちづくり会議担当部長
山本 廣美	青葉地区社会福祉協議会	会計部長
武山 正男	青葉地区民生児童委員協議会	総務部長
鳥本 康子	青葉地区民生児童委員協議会	主任児童委員
佐藤 忠	青葉地区老人クラブ推進協議会	会長
マーフィー 美奈	青葉地区交通安全母の会	会長
吉川 幸	旧青葉小学校PTA	副会長
栗生 賢一 (副部会長)	厚別南町内会連合会	会長
吉岡 敏幸	厚別南町内会連合会	副会長
今野 浩司	厚別南町内会連合会	副会長

第6回跡活用部会に 第6回部会は10月～11月頃を予定しています。
ついて

■ 御意見・御質問は、下記までお寄せください ■

■市有施設の配置・複合化等の全体調整に関する事■

札幌市財政局 財政部 企画調査課（公共施設マネジメント担当）
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎11階
TEL 011-211-2216 / FAX 011-218-5147 / E-mail zaisei@city.sapporo.jp

■学校跡活用の検討に関する事■

札幌市まちづくり政策局 都市計画部 地域計画課（調整担当）
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎5階
TEL 011-211-2545 / FAX 011-218-5113 / E-mail toshikeikaku@city.sapporo.jp

■部会の開催に関する事<小規模校検討委員会事務局>■

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル5階
TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837 / E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

跡活用部会ニュースは、札幌市ホームページにも掲載しています。

□まちづくり政策局ホームページ

<http://www.city.sapporo.jp/keikaku/kougai/sonota/sonotachiiki.html>

□教育委員会ホームページ

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>